

1 本年度の重点教育目標

『個別最適な学びと、協同的な学びに取り組み、自らの可能性を最大限に引き出す生徒』の育成

2 本年度の取組の重点

①確かな学力を実現する学習指導の充実 ②豊かな人間性を育む教育の推進  
③学校力向上のための組織体制の充実 ④家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学力を実現する学習指導の充実	確かな学力と学ぶ力の育成をめざし、指導方法の工夫改善がなされたか	a		A	A	
	各教科において、言語活動を充実させ、思考・判断・表現する力の向上を図ることができたか	b	全国学テの結果から、日常の授業や定期テスト等で思考・判断を問う問題を重点的に扱う。	A	A	
	各教科において家庭学習の定着に向けた取り組みが、計画的かつ適切に行われたか	b	家庭学習の定着に向けて学年単位ではなく、全校で教務部を中心に組織的に取組を行う。	A	A	一台端末の持ち帰りの対応でICTの積極的な活用の取組を継続し、さらに充実してほしい。
② 豊かな人間性を育む教育の推進	基本的な生活習慣の定着のため、共通理解・実践が適切に行われたか	b	スコラ手帳の有効について、スコラ甲子園など公表できる場を設けることや活用法の紹介を進める。	A	A	
	各種資料を活用した豊かな心を育む実践が行われ、いじめや不登校等の未然防止に関わる計画的な教育活動を推進することができたか	a		A	B	生徒指導の在り方も変わってきており、粘り強く生徒一人ひとりと関わる対応を今後も続けてほしい。
③ 学校力向上のための組織体制の充実	分掌・学年団・各特別委員会の業務分担や職務の内容が明確であり、経営方針や重点に沿ったものであるか	a		A	A	
	諸会議や打合せなどは、教職員の課題共有のため、適切に運営されたか	b	休憩時間にかかる会議もあり、勤務時間内での運用や会議の精選・日程の設定について検討すべき。	A	B	会議の提案
	特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援が行われたか	b	特別支援委員会の立ち上げが遅れたこともあり、定期的に開催していく。	A	A	
④ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	保護者・地域及び関係機関との連携を図り、諸問題の解決に努めたか	a	感染対応で行事に参加できない場合のライブ配信について今後も継続。	A	A	北中の特色でもあり今後も連携を深めてほしい。
	家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標、学校運営の基本方針を共有することができたか	a		A	A	

自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。